

学校訪問 ⑧

出そう声 流そう汗
働かそう知恵
そしてつなごう手と手

湯野小学校

湯野小学校（備中町西油野・雛元豊美校長）は全校児童11人。家族のようにみんな仲良く、児童も先生も協力しあって学校生活を過ごしています。

湯野小学校の1日は朝の校内放送で始まります。1年生から6年生まで全校児童が交代で行う放送では、朝のあいさつと1日の目標、そして児童たちの合言葉「出そう声 流そう汗 働かそう知恵 そしてつなごう手と手」が元気に響きます。



同校は、地域交流が盛んでカントリークラブ湯野として空き缶拾いや清掃活動に取り組みほか、運動会や学習発表会、湯野っ子祭りには、地域の皆さんや近隣の小学校、幼稚園を招待して、日ごろの成果を発表します。

地域の皆さんが特に楽しみにしているのは、一輪車と太鼓です。秋に開催された運動会では、全校児童が個人演技や集団演技など、一輪車ならではの華麗な技を披露しました。

同校の特色の一つである太鼓は、「湯野わらべ太鼓」として親しまれています。

練習では、児童が自分たちでリズムを創るなど、新しいものにも積極的にチャレンジしています。

「リズムを考えて、みんなの太鼓がそろとうれしいです。これからも楽しく続けたい」と4年生の嶋池実果さんは話します。

そのほかにも、市（西部地区）児童生徒科学研究発表会では、2年連続で特選に輝くなど、いろいろな活動に熱心に取り組んでいます。

3年前に卒業した先輩の研究を継続し、新しい発見や自分たちの意見を加えた成果で、県の発表会では5・6年生4人が立派に発表しました。「分かりやすく伝えよう」と大きな声を心がけました。卒業生の研究を引き継いで続けたことで、いい研究ができました」と話すのは6年生の細川凌雅くん。

同校の子どもたちは、自分たちで考え、進んで行動しています。学校内だけでなく、卒業生やこれから入学してくる子どもたち、地域の皆さんなど多くの人と手をつなぎ、元気なあいさつと明るい笑顔で、大好きな湯野をつくつていきます。



「植えた苗の本数で分けつの数は違うのか」で特選に輝いた児童たち

栄光をたたえます

文化やスポーツ活動の全国大会出場、それに準じる成績を収めた人・団体を紹介します。

◆大畑直也さん（成羽町下日名）

高梁城南高校3年・電気科

第26回全国製図コンクール電気系部門で最優秀特別賞を受賞。



「住む人のことを考え、細かい部分にこだわりました。製図に限らず正確さは大切なことなので、今後にも生かしたい」

「栄光をたたえます」に 情報をお寄せください

市内で活動し、右記に該当する人・団体の情報があればお知らせください。

■問い合わせ・連絡先

企画課公聴広報係 (TEL)0210



杉田さん

クライミングでまちおこし ● 杉田 守二さん(備中町)

岩場をクライマーの全身から湧き出る気迫、独特の緊張感が漂います。

杉田守二さん(70)は、自然の岩場などを登る「クライミング(注)」に取り組んでいます。

クライミングとの出会いは、杉田さんが備中町の商工会青年部長をしていた平成2年にさかのぼります。すでにクライミングの名所として、有名になっていた備中町用瀬の断崖で体験取材し「登り切ったときの達成感は何にも代え難いもの。備中町にこんなすばらしい場所があるんだ」と感じたことがきっかけだったそうです。

元々運動が好きだった杉田さんは、クライミングに夢中になり、以来普及活動に励んできました。全国大会や研修会の開催、中学校での課外授業などのほか、仲間と岩場周辺の清掃活動をするなど地域貢献も行っています。幼少のころから教えた息子の雅俊さん



(注)は、全国大会で何度も優勝するほどになりました。

現在、普及活動の一環で、市民体育館の一室に人工の岩場を設置し、3月末まで毎週月・水・金曜日の夜に「クライミング道場」を開いています。スポーツ少年団のほか、フィットネスやダイエットを目的にする人など、さまざまな人が利用しています。

「高梁をクライミングのまちとして有名にしたい。お世話になった地元で、クライミングで恩返しをしたいんです」と夢を語る杉田さんの目は輝いています。

(注)登り方によってさまざまな名称がありますが、ここではクライミングで統一しています。

